

平成22年度団体間で協働化可能な検討テーマ（案）

* 網掛けが幹事会の候補案

団体名	種別	テーマ（案）	設定理由
(社)東北 経済連合 会	①	ア 教育旅行の誘致	・ 東北観光推進機構に設置している「教育旅行誘致部会」と連携し、教育旅行の誘致促進を図る。
	②	イ 個別・具体的なポートセールスの実施	・ 整備が進む仙台塩釜港を活用した輸出入の促進を図る。
(社)みや ぎ工業会	③	ア 大学側の困りごと（ニーズ）と県内企業とのマッチング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学が持っているシーズに地元企業が接する機会は大学主催のイベントなどであるが、大学の先生が研究開発のために県外企業に解決を求め、装置や部品を発注しているケースも少なくないにもかかわらず、現状、県内企業がこれらのニーズを知る機会は限られている。これらのニーズの多くは県内企業が保持する技術ノウハウで対応・解決できるものが多いと考える。またその解決過程を通じ、産学の相互理解の深まりに加え、新しい理論や技術を習得し、自企業の物創りの進化や、大学との協業によるオリジナル製品創出に期待を持てると考える。 ・ そのような大学側のニーズと地元企業とのマッチングを行い、県内産業の知産地消を推進するとともに、大学側にも多くの地元企業を知ってもらう場を設け、富県戦略に貢献する。
宮城県商 工会議所 連合会	④	ア 次代を担う製造業関連の人材育成（継続）	・ ものづくり人材の安定確保のため、次代を担う製造業関連の人材育成事業の取り組み
	⑤	イ 観光消費を拡大する観光推進事業の取り組み（継続）	・ 観光関連の消費を拡大するため、宿泊が伴う等の観光推進事業の取り組み
	⑥	ウ 農商工連携の具体事業の取り組み	・ 地域産業の新たな展開を図るため、農商工連携の具体事業の取り組み
宮城県商 工会連合 会	⑦	ア 農商工連携を進めるための人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林漁業団体と商工会・商工会連合会との共催若しくは相互協力（セミナー出席者の募集等において）による農商工連携セミナーの開催 ・ 農林漁業者を対象とした経営革新塾の開催（農林漁業者が製造業や小売業へ進出するための受講者募集に関し、農林漁業団体からの支援）
	⑧	イ 仙台・宮城「伊達な旅」キャンペーンの推進	・ 富県宮城推進会議が主体となり、宮城県観光誘致協議会、宮城県観光連盟等と市町村及び市町村商工会が連携し協働化可能な取組みを図る。
(社)宮城 県情報サ ービス産 業協会	⑨	ア IT化促進による県内企業の活性化	・ 団体間連携による企業とITベンダーとのマッチング機会創出を図り、IT化を促進することにより地域経済の活性化と富県宮城へ貢献する。
	⑩	イ 地域IT企業の人材の育成・確保策の強化	・ 産学官の連携強化により、IT企業の次代を担う人材を育成し確保定着化を図る。
	⑪	ウ 地域IT企業としての地域経済活性化への協力体制強化	・ 異業種との更なる交流を促進することにより、IT化に対する問題提起等情報の共有化を図り、IT企業側としての対応体制を検討・強化する。

【参考】

富県創出モデル事業（富県創出県民総力事業）の概要

	テーマ	人材確保・育成	観 光
平成21年度	事業名	みやぎものづくり企業魅力発信支援事業	産業観光推進事業
	目 的	ものづくりを支える団体が協働し、県内外の学生が進路を選択する際のカギとなる情報を提供し、県内就職促進、優秀な人材の確保を図る。 ① 製造業ガイドブックを作成し、大学等への送付・訪問 ② ものづくり企業PRセミナー	1次～3次産業までの埋もれている産業体験メニューの掘り起こしを行い、教育・体験旅行の商品化と人材育成を含む受入体制の整備を図り、観光地の魅力向上と観光客の増加を図る。
	事業費	2,500千円	2,500千円
	テーマ	人材育成	観 光
平成20年度	事業名	ものづくり・ひとづくりモデル事業	美味し国～米・味噌・純米酒～宮城の観光振興事業
	目 的	ものづくり産業の競争力強化のため、次代を担う経営幹部の人材育成、人的ネットワーク形成、技術の高度化、特定産業参入を目的とした実践的研修事業実施	「食材王国みやぎ」と「観光王国みやぎ」を結びつけ、1次、2次、3次が連携し、DCを見据えた「米・味噌・純米酒」をテーマとした旅行商品造成・販売により集客力向上に資する。
	事業費	2,000千円	3,000千円